

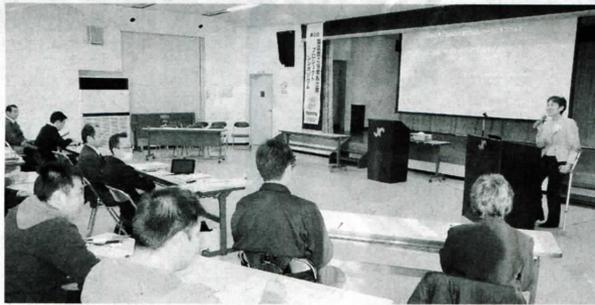
製造業の完全地産 土産品開発波及へ

伊那商議所がシンポジウム

製造業が当地お土産プロジェクト・シンポジウム(同プロジェクトチーム、伊那商工会議所主催)は13日、伊那市中央の伊那商工会館で開いた。製造業の「完全地産」に興味を持つ県内外の企業関係者が参加。記念講演やパネルディスカッションでものづくりを考え、同チームの企画商品「とことこイーナちゃん」を使ったフォトコンテストの表彰式も行った。

伊那市内の中小製造業者が企画から製造まで手がける市内完結の土産品開発プロジェクト。シンポジウムは、プロジェクトの理念と活動を広く波及させることを目的に、県地域産業活性化基金活用事業を導入して開いた。

記念講演ではダヴィンチ・



完全地産のものづくりについて考えたシンポジウム

ブレインズの下川眞季代表が「地域を元気にするものづくり」と題して講演。日本は世界中で最も百年企業が多い国であるとし、「地球産業は1000年後まで伝えられる産業を目指している」とした。

「大企業が大企業ゆえに破壊的変革に乗り遅れている」と指摘。一方で「ニッチ(隙間の市場)でユニークな、世界が認める隠れたチャンピオン企業が日本には数多くある」とした。東京大田区や新潟県燕三条での取り組みを紹介し、「異分野は意外な解決法や応用力があり、アイデアの宝庫」と語った。

活動報告では同チームが第2弾で企画した「とことこイーナちゃん」など、プロジェクトの新展開を報告。パネルディスカッションでは、プロジェクトの未来と可能性について語り合った。

同チームの橋爪良博代表は「たくさんの方の協力で少しずつ商品を増やし、少しずつ広がりをもせ、全国から問い合わせがくるまでになった。プロジェクトの取り組みが日本全国に広がっていくことを願う」と話した。(浜武司)